

あの時の

—
THE BLUE
LOVE LETTER
AT THAT
MOMENT

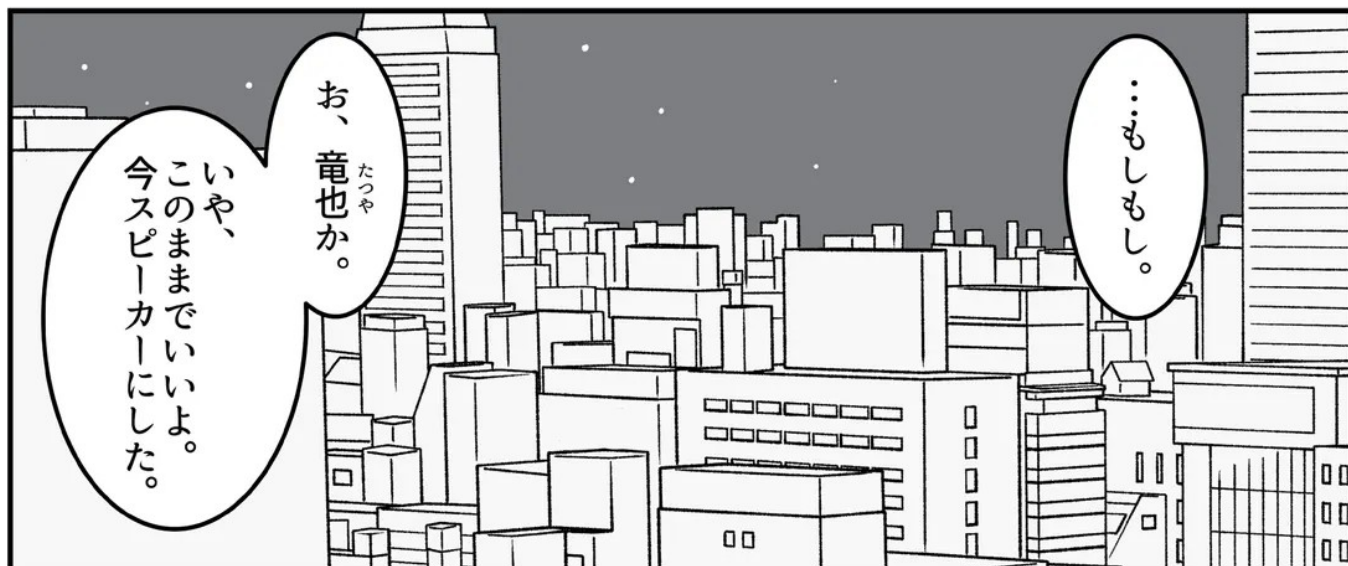
青いラブレター

あの時の

青いラブレター

R-18
ADULT
ONLY

THE BLUE LOVE LETTER AT THAT MOMENT

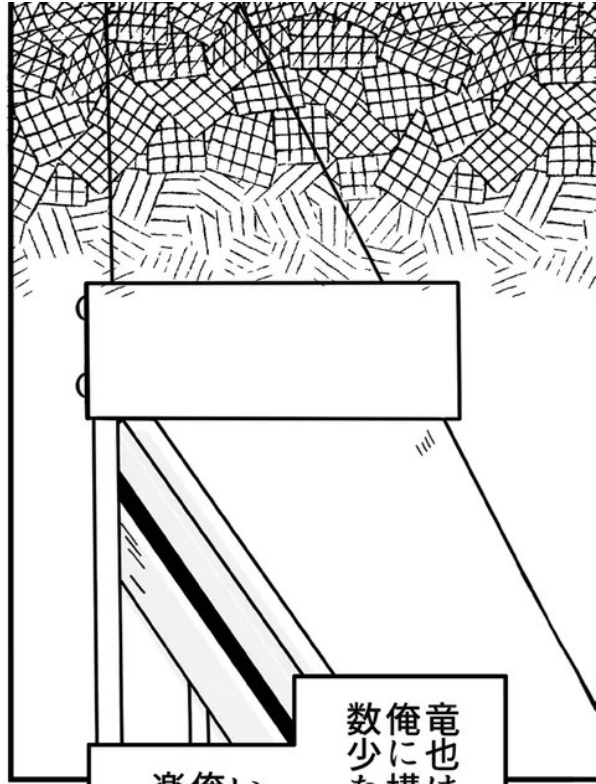






俺の高校時代は
まあ、普通……
ではなかったかな

俺は、いつも
席に座って何か
描いてるような
やつだった

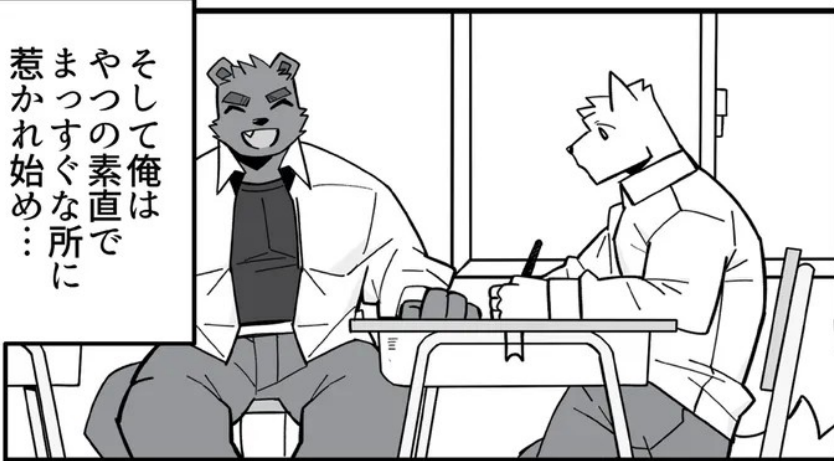


竜也はそんな
俺に構ってくれる
数少ない友人だった

いつも隣の席を陣取り、
俺が描いた漫画を
楽しく読んでくれた、

そして俺は
やつの素直で
まっすぐな所に
惹かれ始め……

密かに……想いを
寄せていた。



俺の初の読者でもあり
片思いの相手でも
あった竜也は

単調な俺の高校生活を
青く彩ってくれた
掛け替えのない
親友であった。



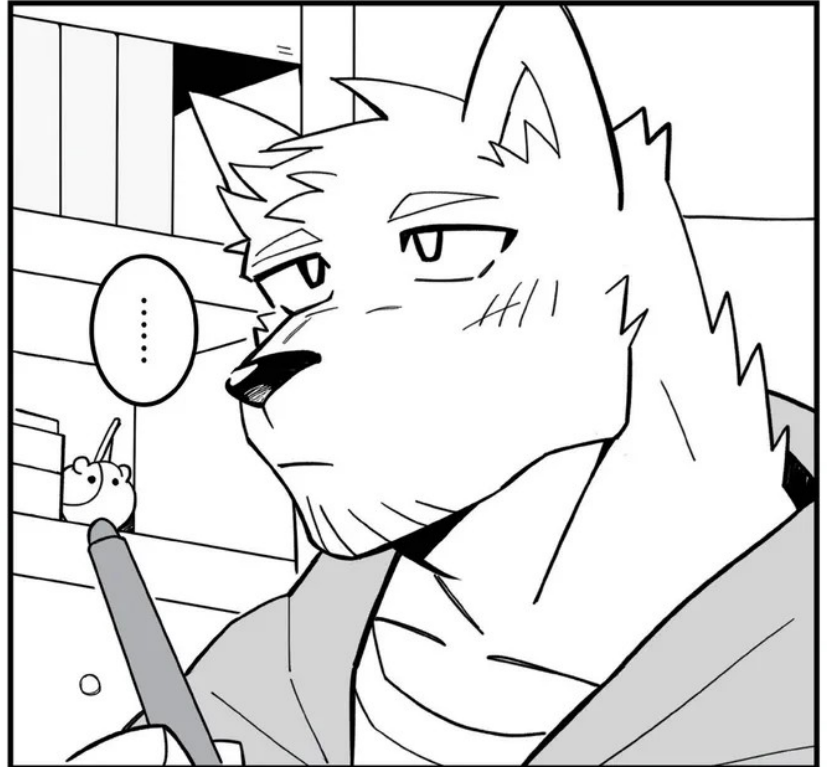
まあ、成人してからはお互い忙しくなってる、最近はちよっと疎遠気味だけど

また会って色々語り合おうってそう言いながら別れの挨拶を交わした



…もう何年も前の話か。

早いもんだな時の流れってやつは。



どう変わってるかなやっぱり気になってしまふな…

好きな人、出来てるかな…？



おい！
りよ！すけ！

オレだぞー！





いま
開けるよ。

ピンポン



来たのか。



いらっしやい、
竜也。

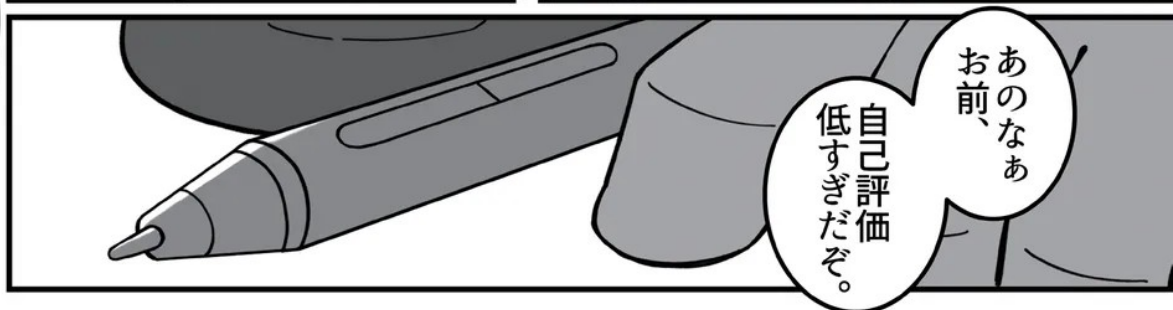
元気そうで
何より。



おー！
久しぶりだな、
良助！
りやすけ

お邪魔します！
手ぶらで来るのも
あれだし色々
買って来たぞー！





分かった、
分かったから…
早くビール
飲もうよ。ね？

…おう！
んじゃ、
ちよつと
着替えてくるわ

お疲れさま。
そして…就職
おめでとう。

まさかこういう
形で再開
するとはね。

あー疲れた！
かんぱーい！

久しぶりに
会えて嬉しいよ。

思いついて
さっさと動いた
オレ、とっても
お利口さんだろ？

褒めて
いいんだぞ。

なんだそれ。

まあ…
良くやったとは思
うけど。



ずっとやってる、って聞こえはいいけどね

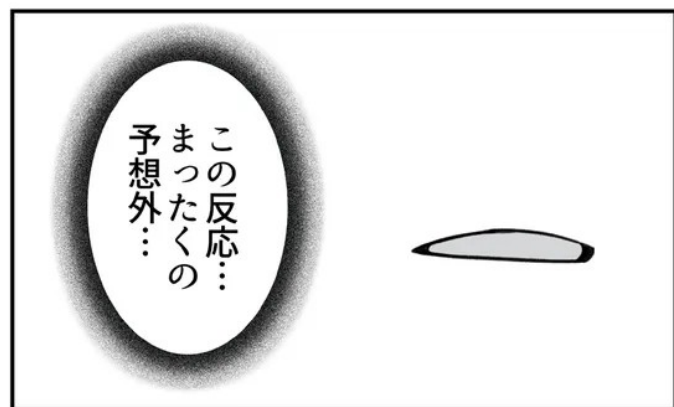
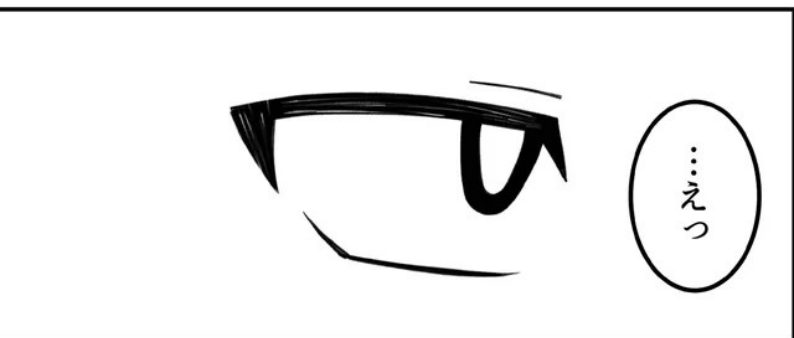


未だにお絵描き頑張ってるなんてさ。

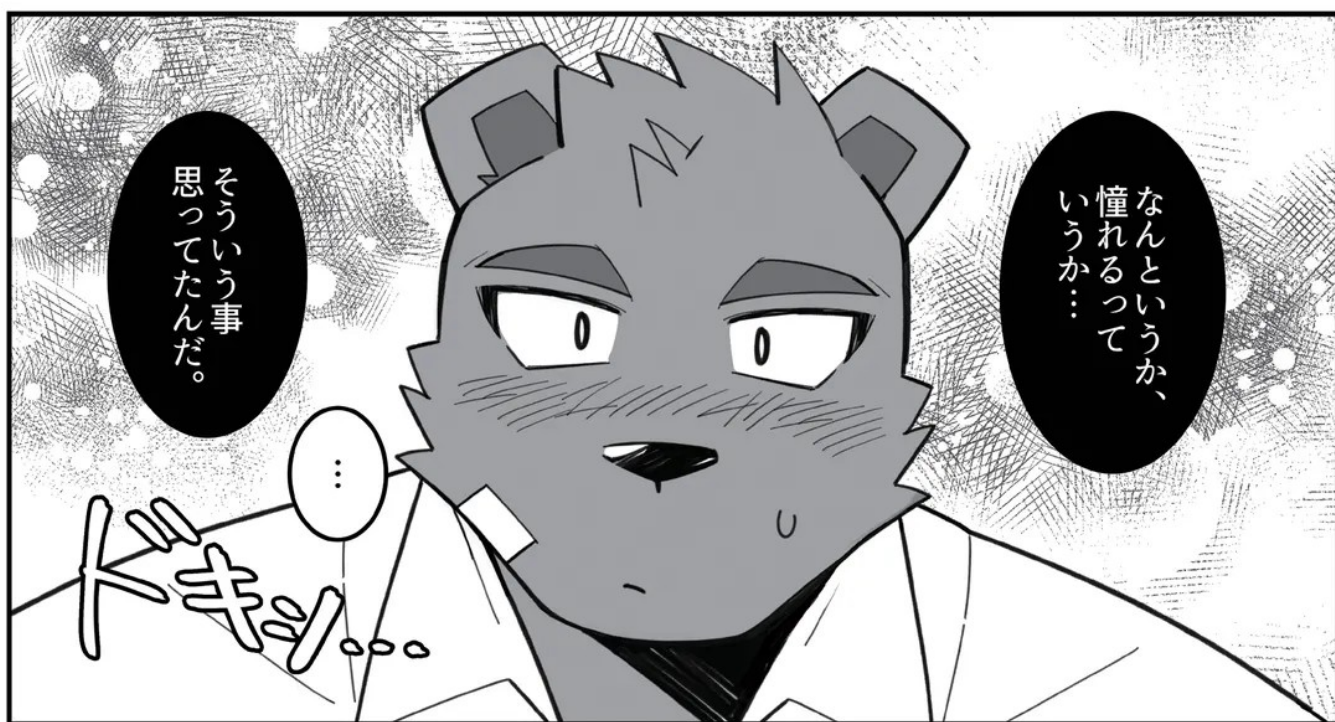
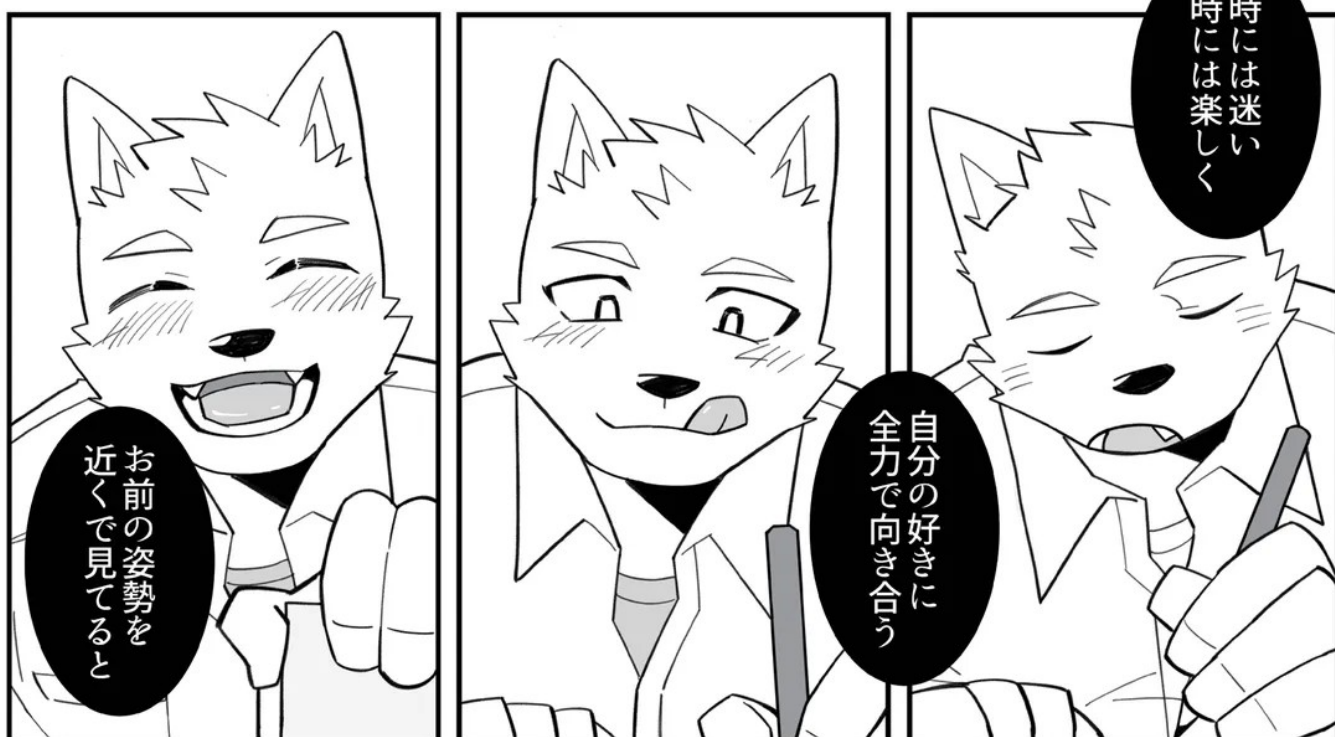


今だから言えるけど俺って、

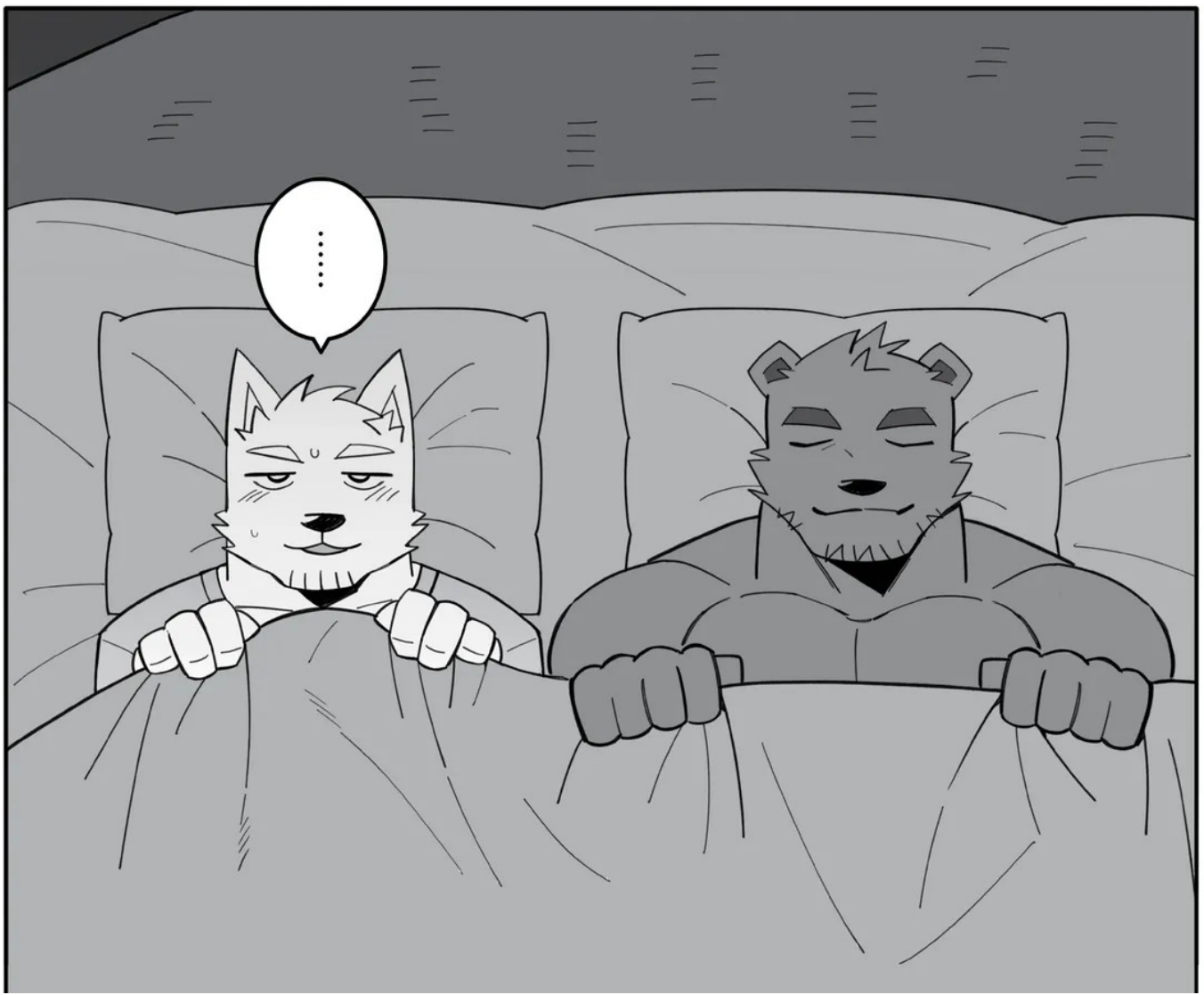
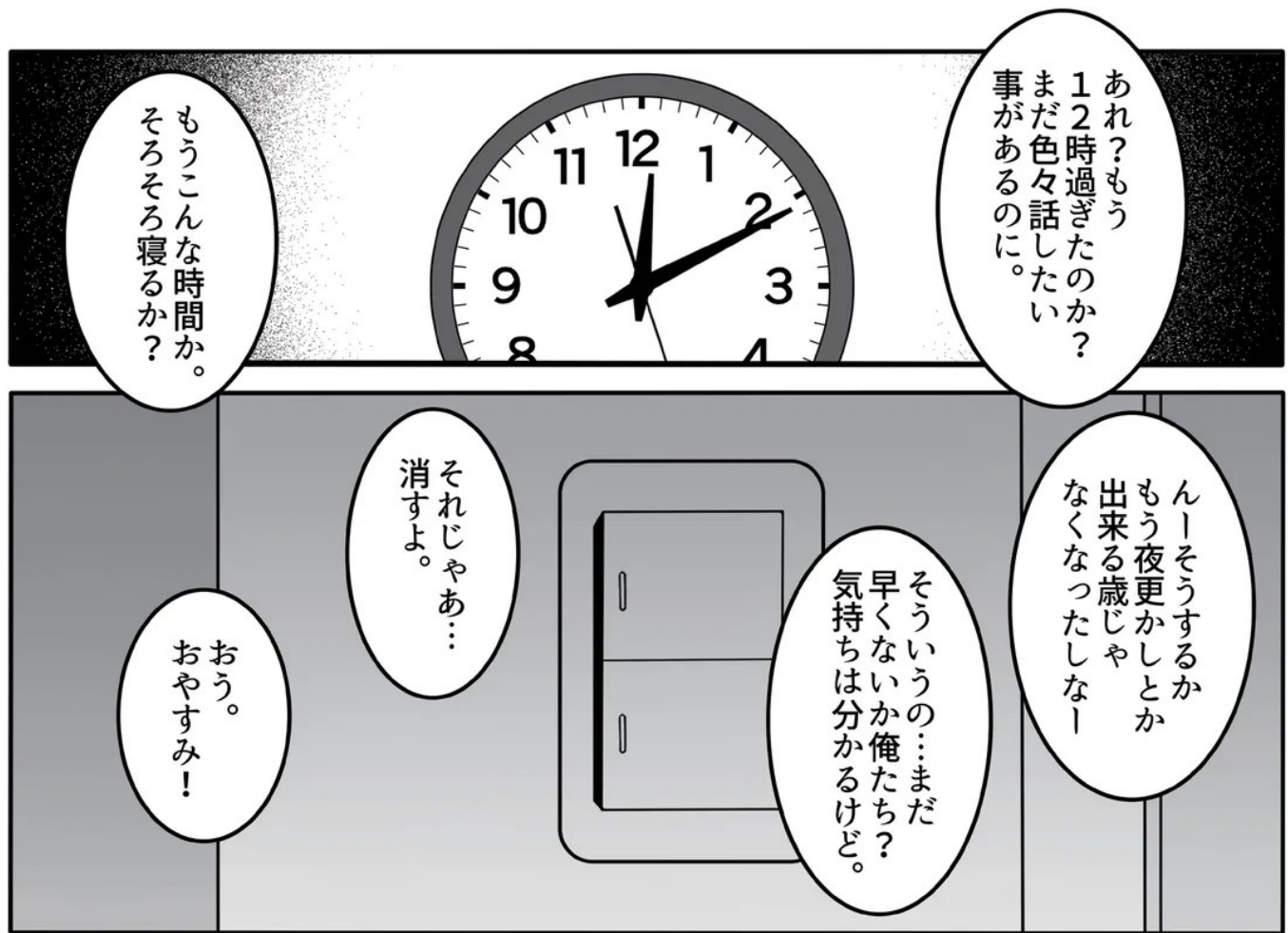
友達としては退屈なタイプだったでしょ？

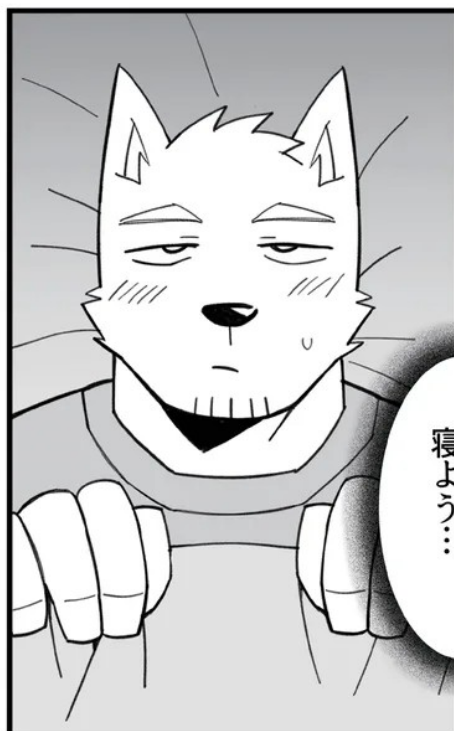


オレ、良助と一緒にいるの普通に楽しかったよ？













オレはもう
寝ようと
思ってた…!



ね

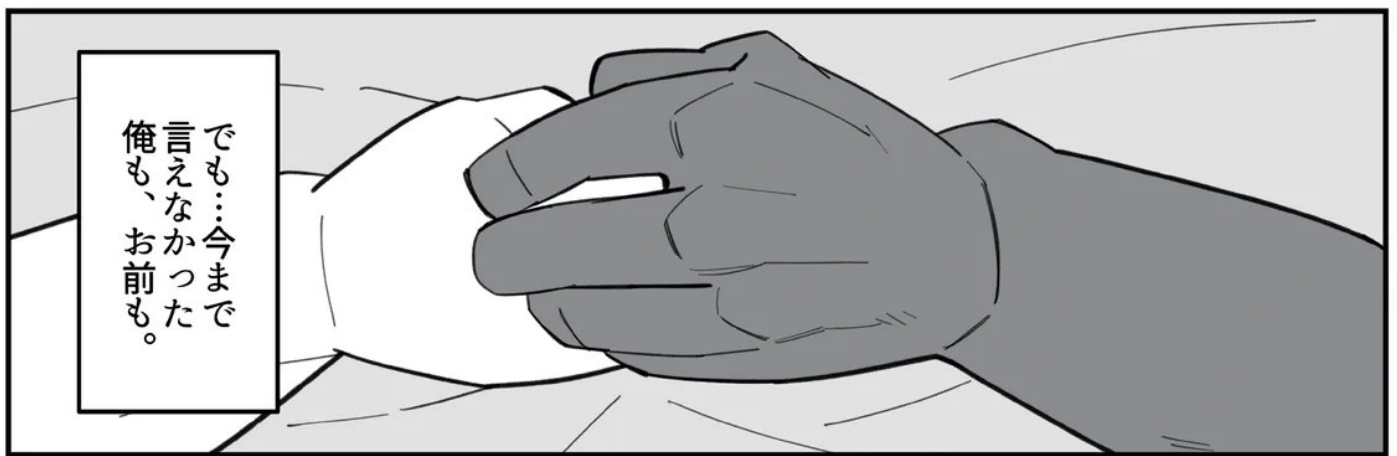
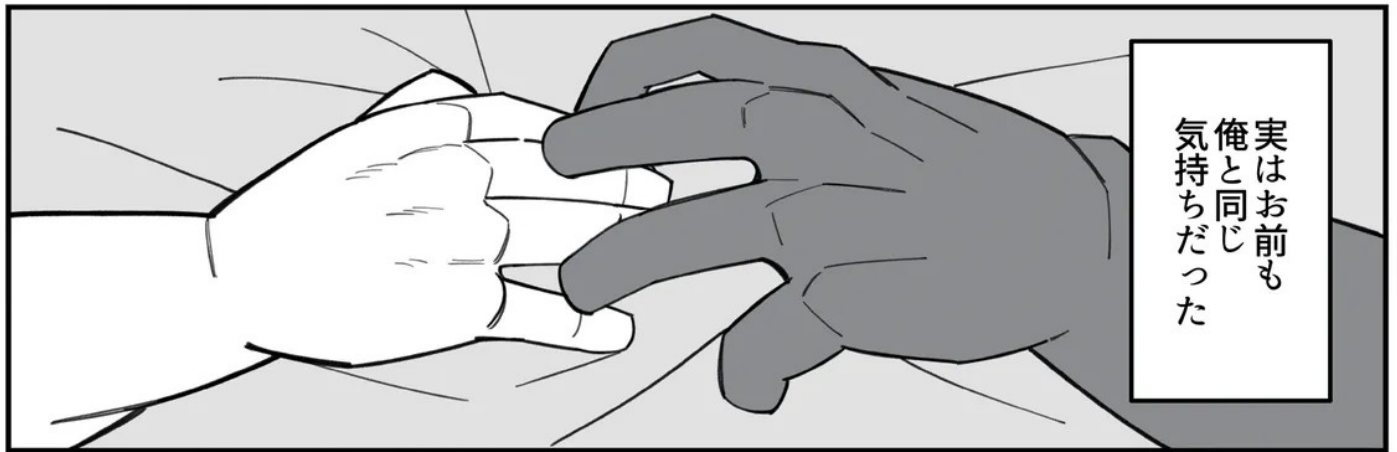
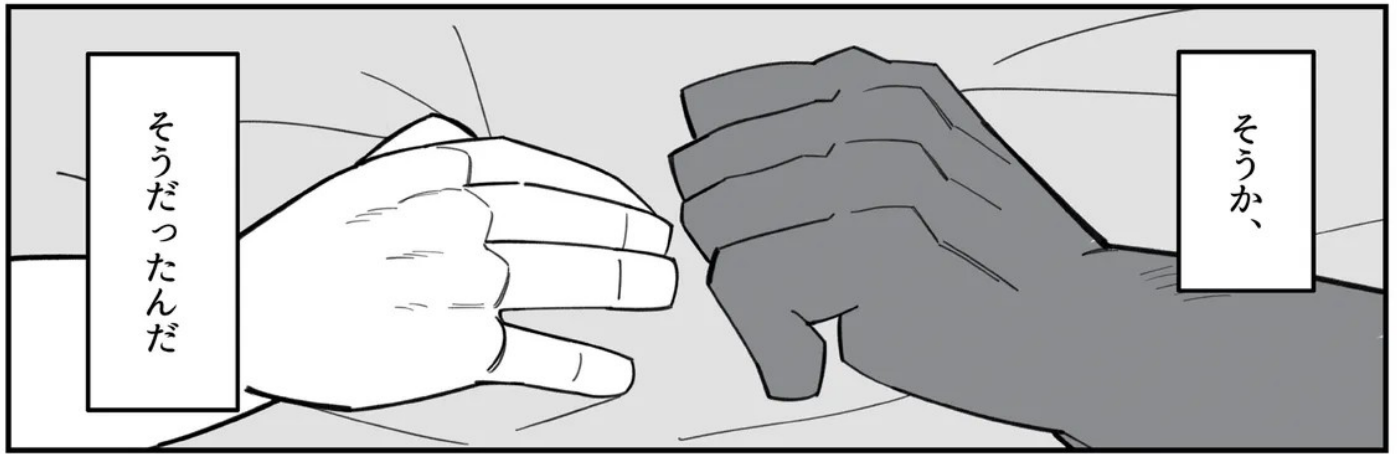
眠れないのか?

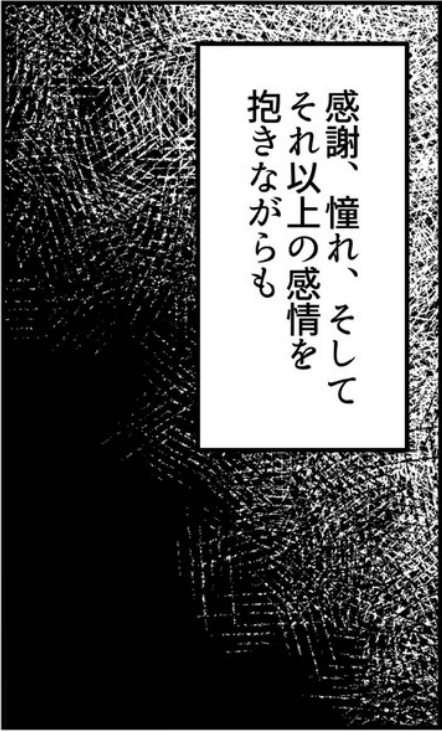


だから…

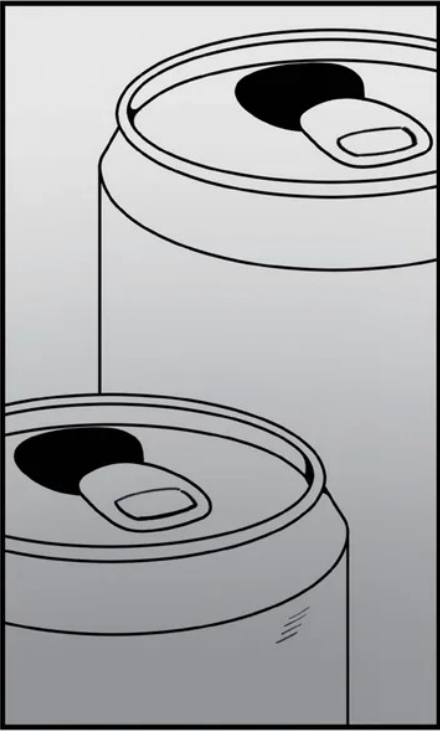


オレ…

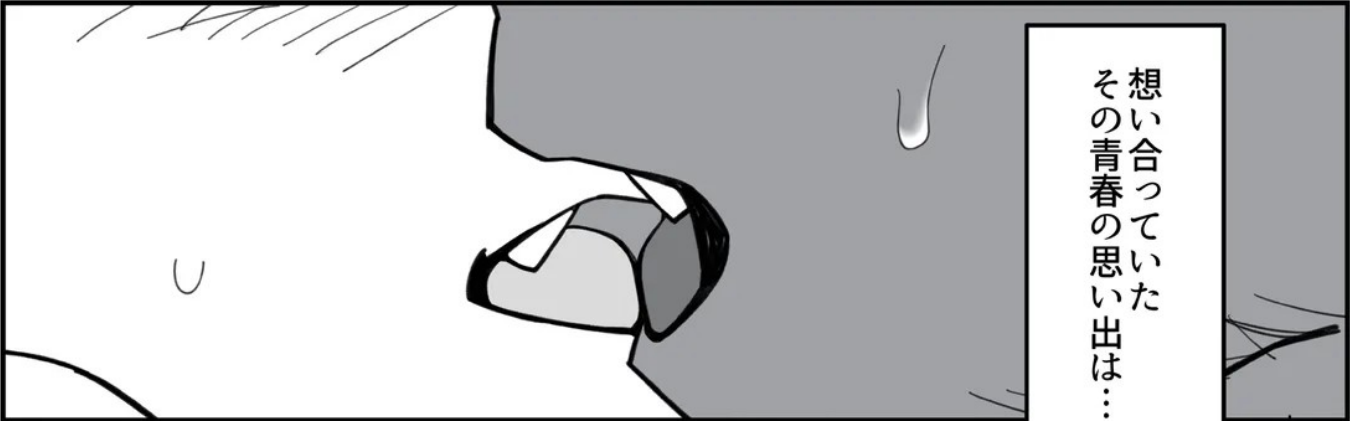




感謝、憧れ、そして
それ以上の感情を
抱きながらも



上手くそれを伝えられず
ただ側にいる事しか
出来なかった
青二才だった俺たち

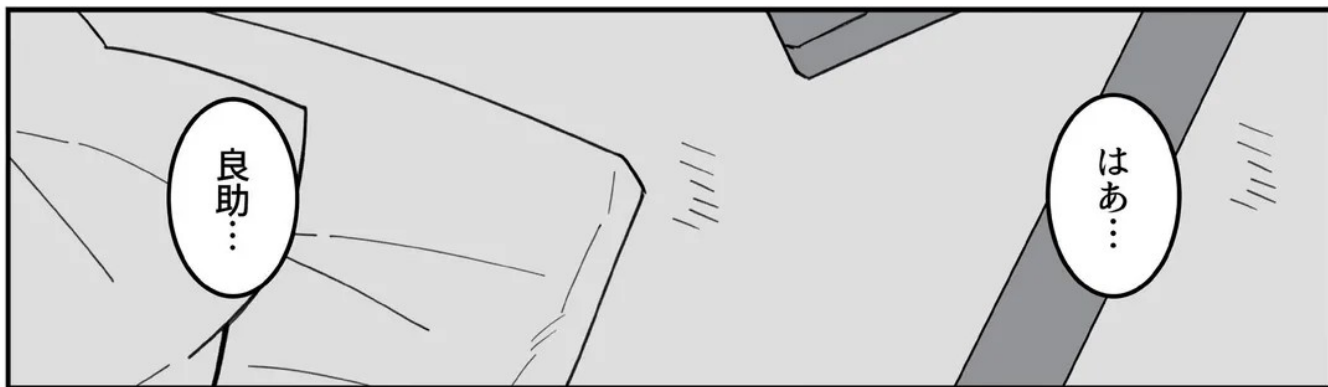


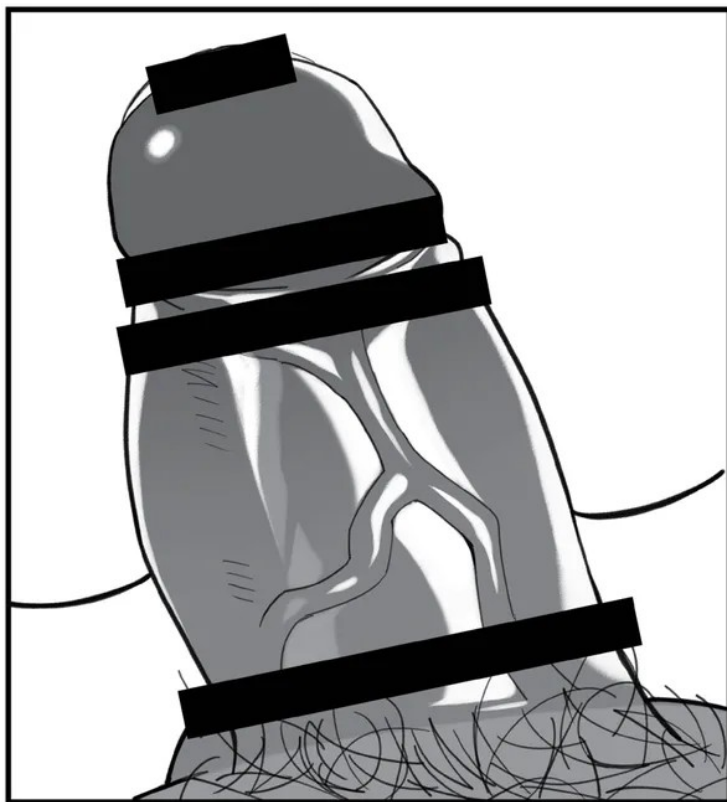
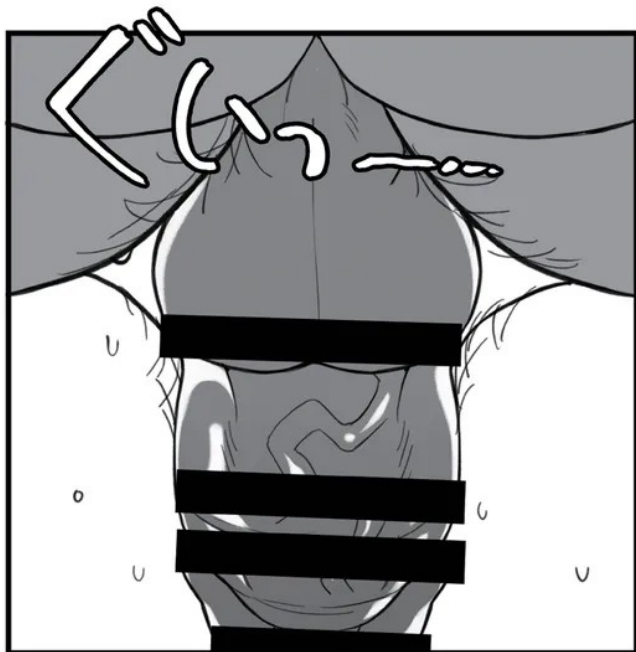
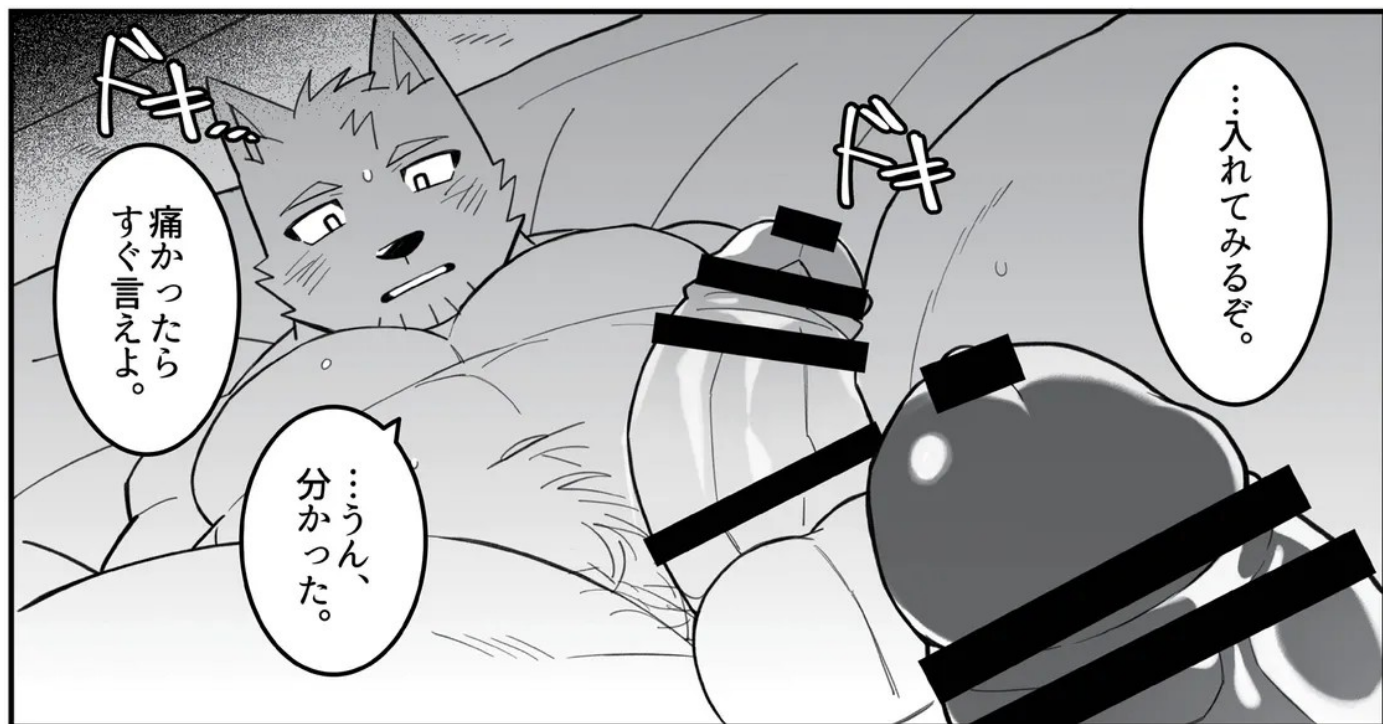
想い合っていた
その青春の思い出は…

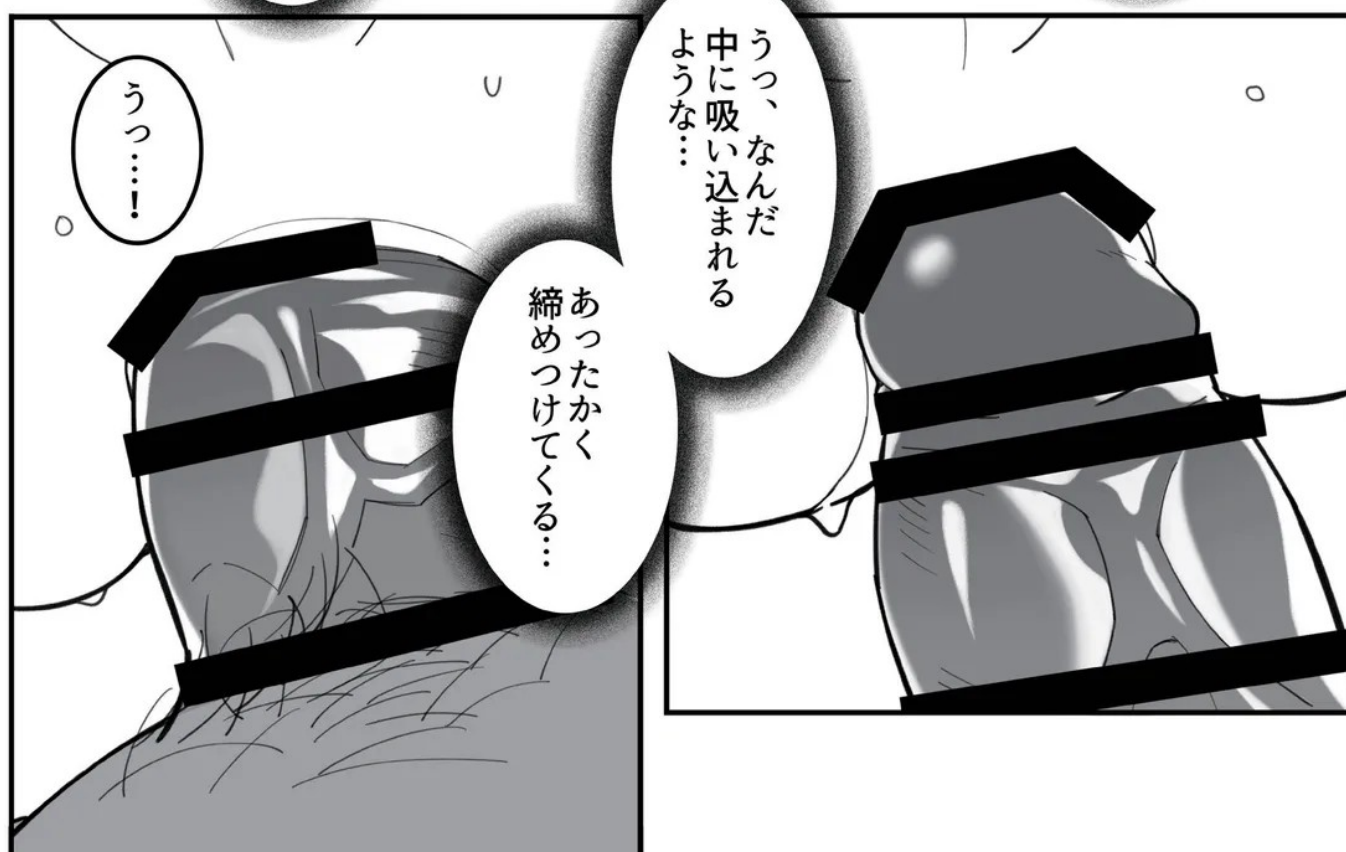


一生懸命書き、
それでも…

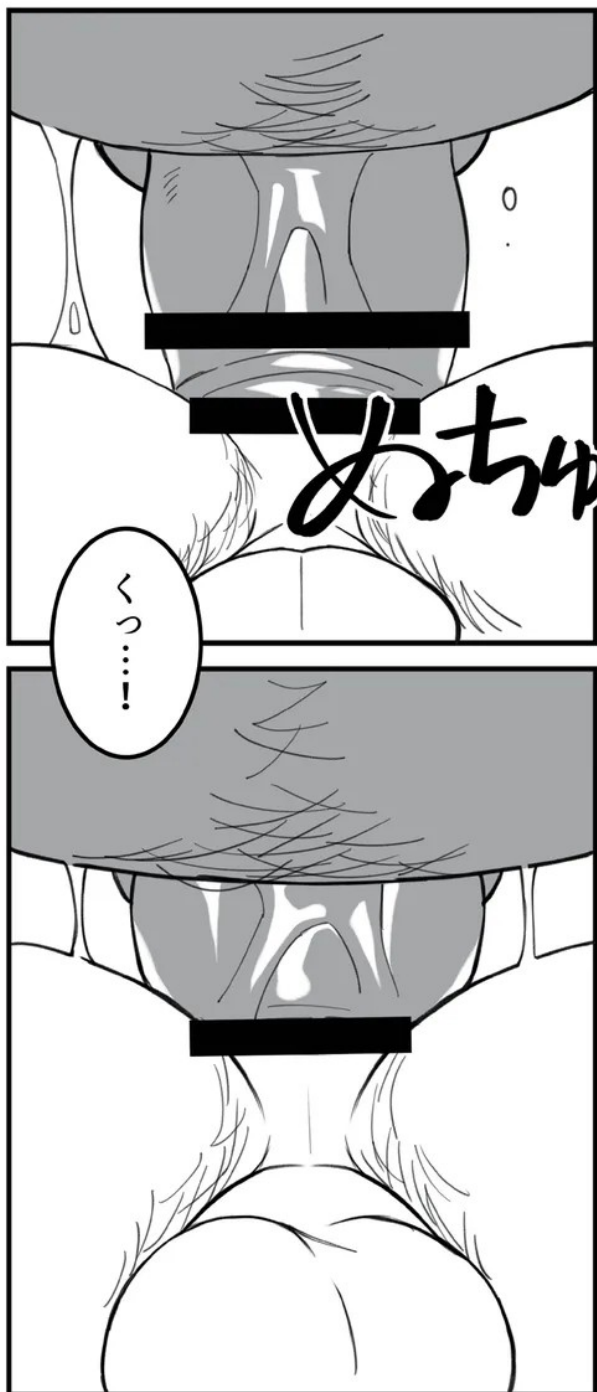
送る事なく心の奥に
しまっておいた
青いラブレター
だったかもしれない

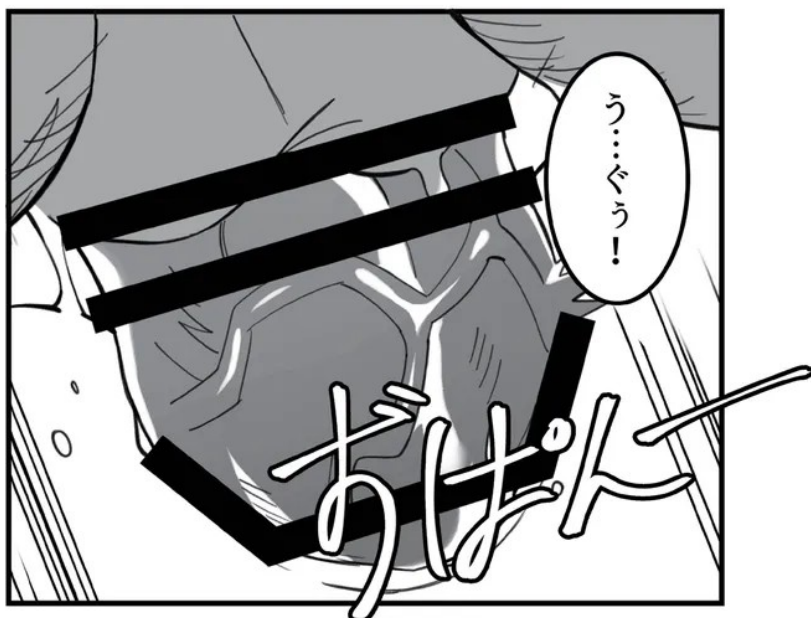
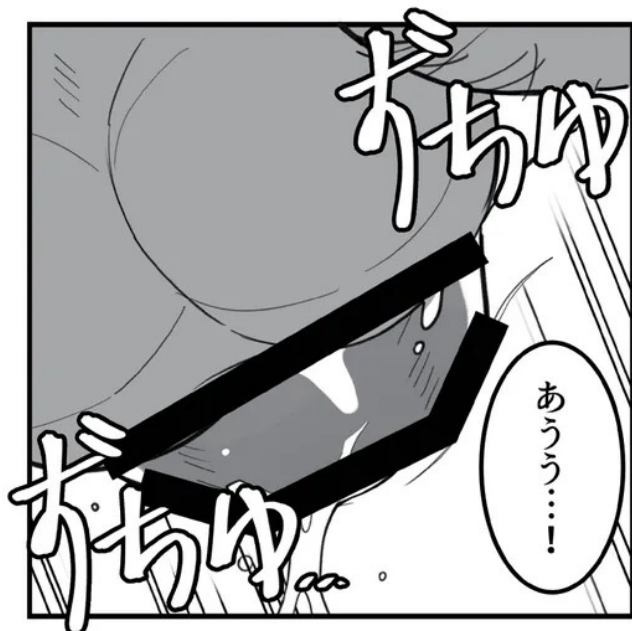


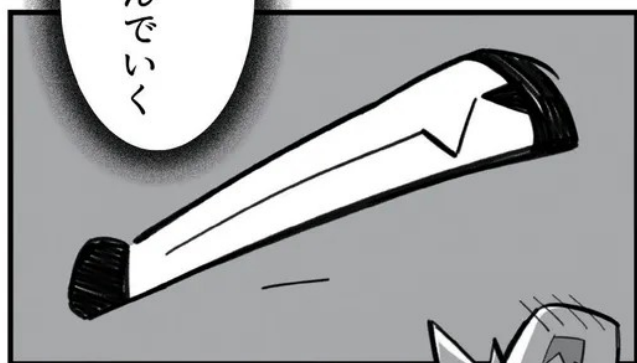


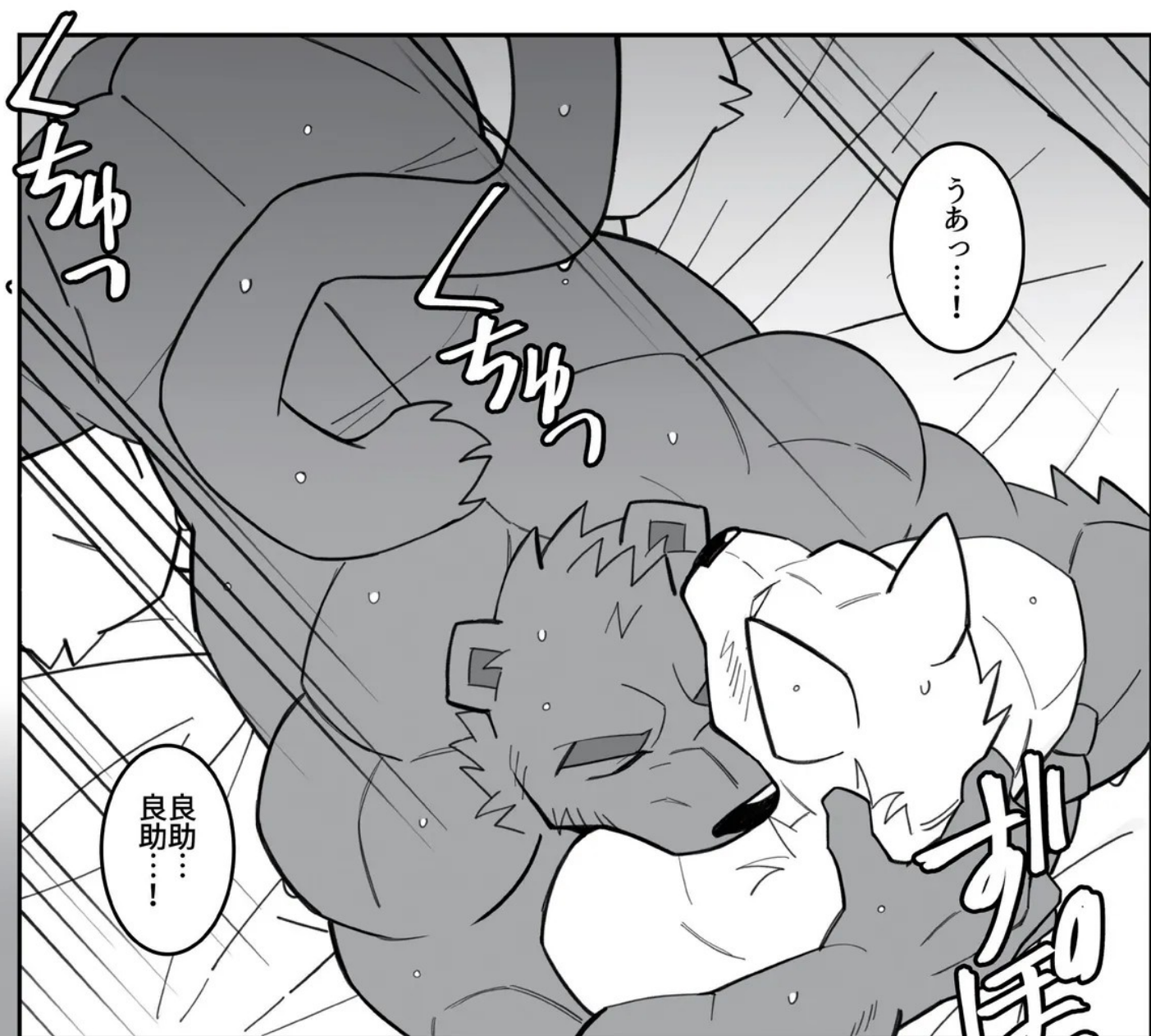














俺…
竜也に犯されて
興奮してる…

はあ…

思いつきり
のしかられて
喘ぎ散らして…



もう、俺
この感覚を
知る前に
戻れそうにない…



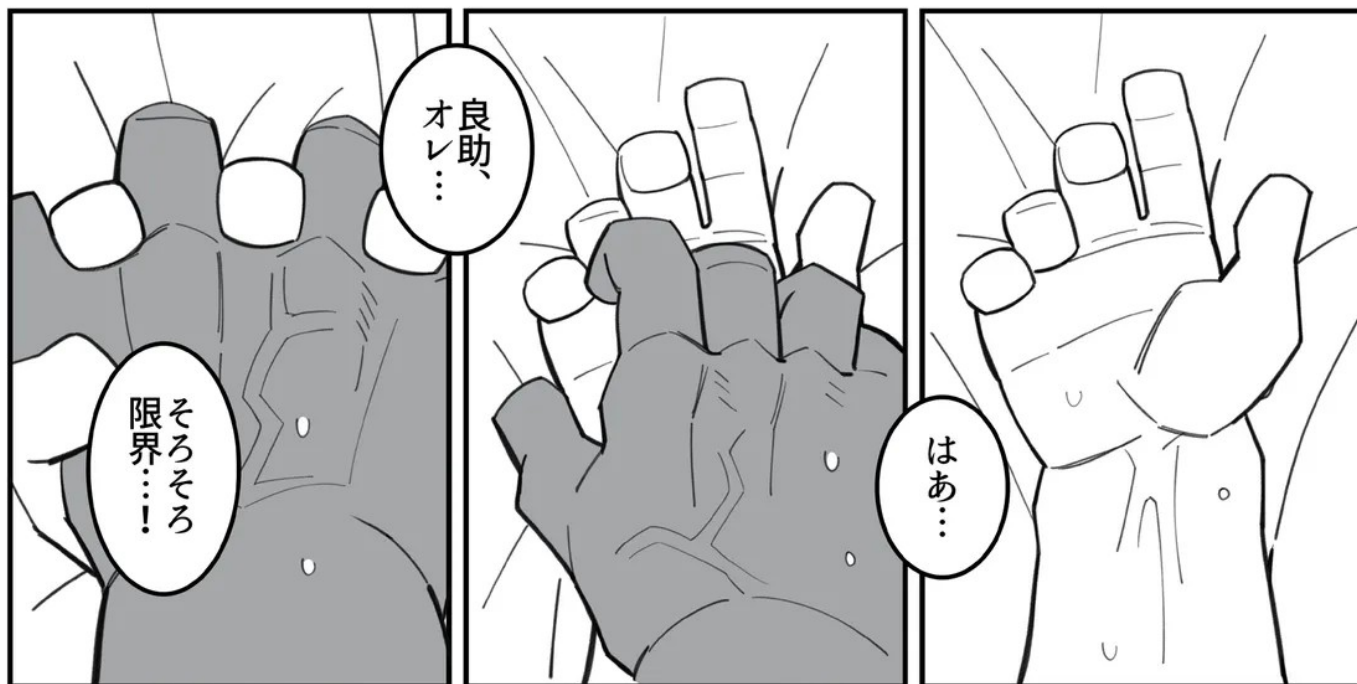
体中が痛いのに
俺の頭は

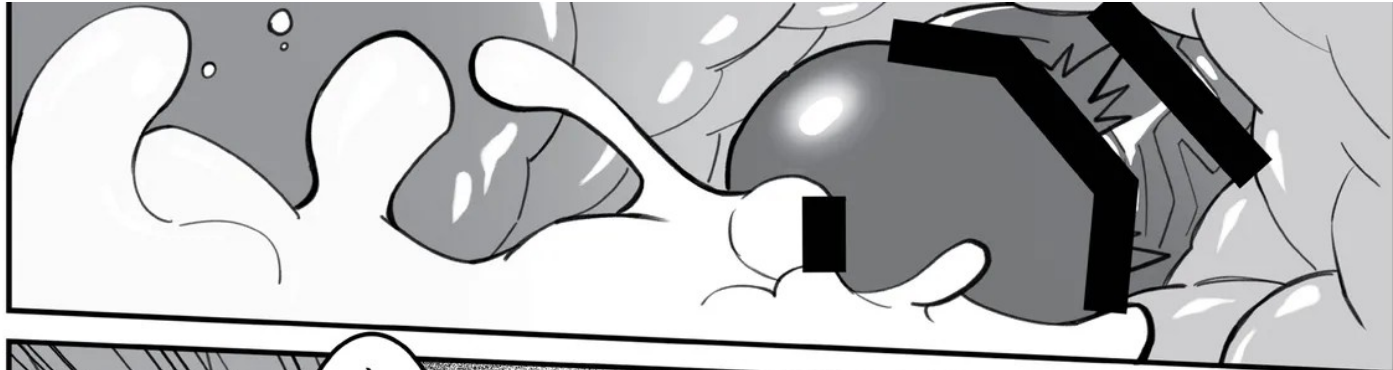
んんっ！

後ろが
竜也のモノで
満たされてる

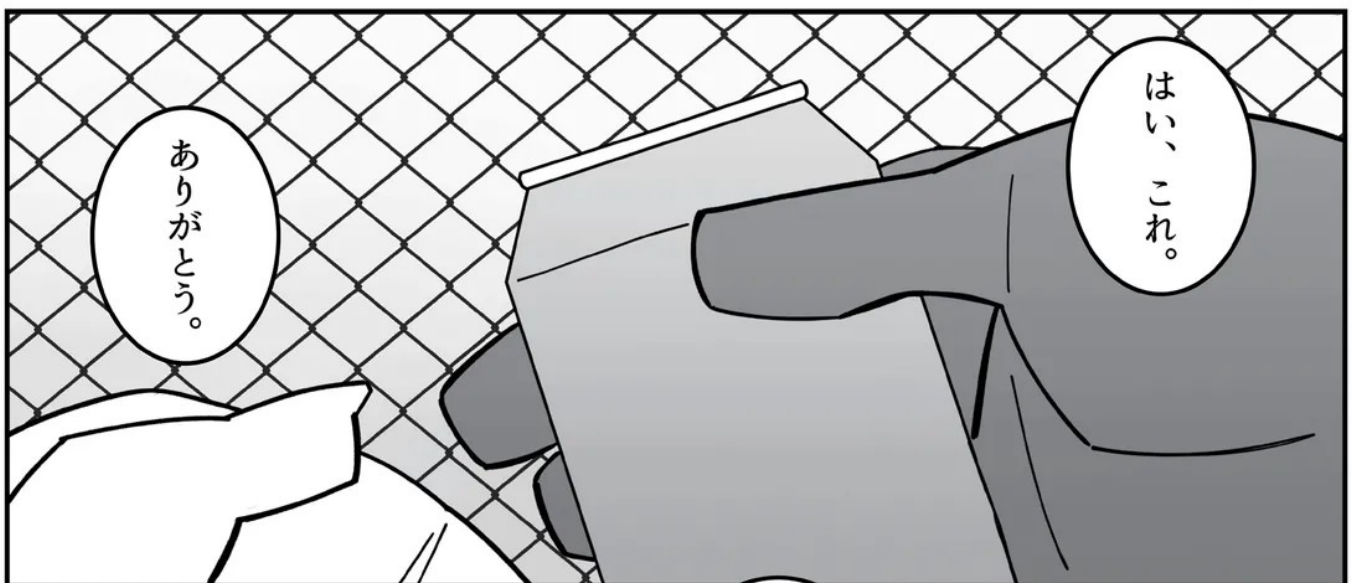
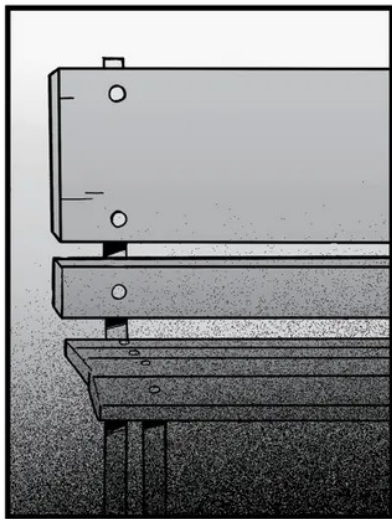
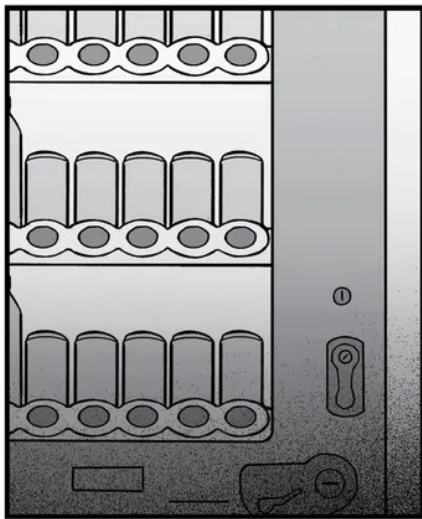
痛みと悦びしか
考えてない…

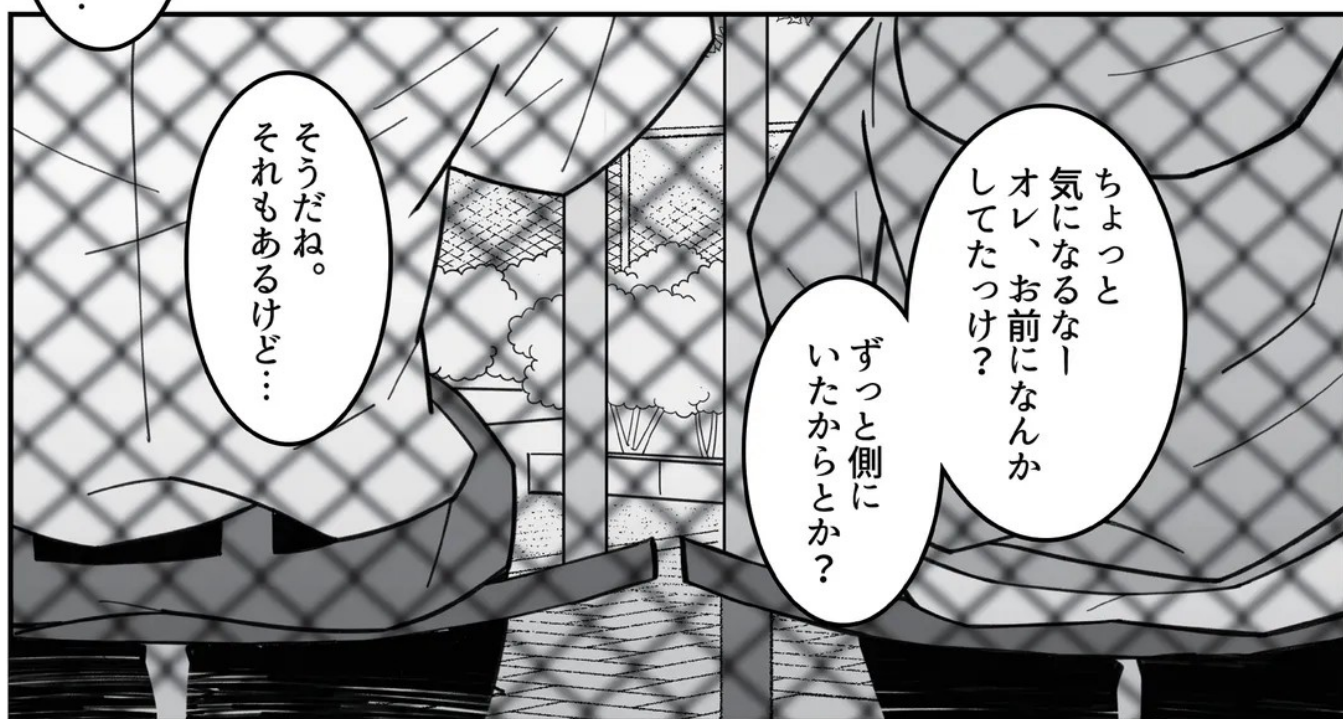
くうっ！













けど…
なんだ？

それは…



言うまでもなく…



次の話がずっと
気になって
たんだよー！

読み終わったかな
どうだった？

うん！めっちゃ
面白かった！



…それだけ？

もしかして
何か適当に
聞こえるんだが…

やれやれ…

素直じゃないね、
今日の竜也は。



後書き

お久しぶりです。雨です。

まず、この本を手に取り、読んでくださった皆さん、ありがとうございます！

今回の本は2年くらい前、ラジオを聞いてたら何となく思いついて殴り書きしておいた素材を引っ張り出して完成したものとなります。

昔は後書きだけで1ページ埋めてたはずなんですが、最近はあまり長く書けないんですよね。年を取ると何事にも鈍感になるってよく聞きますけど、そういうことなんでしょうか。(最初に本を出したのが大学生時代で、今は会社員ですからねえ)

それでは、またいつかお会いしましょう。

訳者コメ

いつも雨さんの作品の翻訳を担当させて頂いてます、Sigmundと申します。

今作はやや難しい言い回しの多い作品でした。

なので原文をそのまま日本語に変えるのではなく、

言葉に含まれた些細なニュアンスを如何にして伝えられるかに重点を置いて翻訳したつもりです。

雨さんの描いた青い少年たちの恋心が、皆さんにもちゃんと伝われば幸いです。

この本を未成年者の方が購入、所持する事は禁止されています。
この本を購入できる成人が、未成年者の代わりに購入し、譲渡することも禁止されています。

無断転載、複製、複写、転売、インターネットへの掲載
(SNS、オークション、プリマアプリなども含む) も禁止されています。

この本を購入、所持する事に対する責任は購入者にあります。
何か問題が発生した場合、この本を販売した作家、イベント側は一切責任を負いません。

© 2025 雨 All rights reserved. all pictures cannot be use without permission



発行日：2025-05-18 (関西けもケット10)

印刷所：K9

発行者：雨

EMAIL：shirogom@naver.com

TWITTER(X)：@hachi_duchi



2025
HACHI

ORIGINAL
KEMONO COMIC

あの時の 青いラブレター

—
THE BLUE
LOVE LETTER
AT THAT
MOMENT

あの時の
青いラブレター

2025
HACHI

R-18
ADULT
ONLY

THE BLUE LOVE LETTER AT THAT MOMENT